

ミサンガに込めた思い

－世界の平和と人類の幸福に貢献する心－

- 1 学 年 第9学年〔後期〕
 2 主題名 国際理解と人類愛〔4－（10）〕
 3 ねらい

下蒲刈中学校3年生がカンボジアでの井戸作りに向け募金活動に取り組む姿を通して、国際協力の必要性を知り、将来にわたって自分にできる国際協力をしていこうとする実践意欲を育てる。

- 4 資料名 「ミサンガに込めた思い」
 5 展 開

	学習活動と主な発問	生徒の反応	指導上の留意点
導 入	1 写真を見て、気付いたことを発表する。 ○ 何を喜んでいるのだと思いますか。 ○ どうしてこんなに喜んでいるのでしょうか。	<ul style="list-style-type: none"> ・ だれかの誕生日 ・ 何かのお祝い ・ 井戸ができたこと ・ とてもほしかったんだね。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 写真（カンボジアの農村で井戸が完成して喜ぶ人々の姿等）を見せることにより、本時の学習への関心をもたせる。 ○ カンボジアの現状について補足する。
展 開	2 資料「ミサンガに込めた思い」を読んで話し合う。 ○ 簡単に募金活動をしようか決めようとしている3年生のみんなの意見を聞いた「和法」は、どんな気持ちだったのでしょうか。 ○ 「和法」の言葉を聞いて、3年生のみんなはどうして静まり返ったのでしょうか。 ○ 3年生のみんなは、どんなことを考えたのでしょうか。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 募金をすることだけが国際協力かな。 ・ どうして、募金活動をするのかしっかり話し合いたい。 ・ 真剣に考え始めたから。 ・ 募金活動は、大変だと気付いたから。 ・ まずは世界の現状を知ることから始めよう。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 資料は状況把握をしやすくするために、二つの場面に分けて提示をするとうい。 ○ 募金活動を何のためにするのか。そのためには何が必要かをしっかり考えさせる。
終 末	◎ 「和法」達3年生が作ったミサンガには、どんな思いが込められているのでしょうか。	<ul style="list-style-type: none"> ・ カンボジアのすべての人々が安心して水が飲めるようになってほしい。 ・ この募金だけで終わらずに国際協力のことに関心を持ち続けてほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 数多くのミサンガを作ることを大変さを想像させ、ミサンガを作っているときの生徒の気持ちについても考えさせたい。 ○ 国際協力とは、まず世界のことに関心をもつことから始まることに気付かせる。

6 授業の概要

(1) 主題について

現在、地球上では、3億人の子どもたちが飢え、生命の危機に直面しており、5歳まで生きることのできない子どもの人数が1000人当たり50名を超えている現状があると言われている。これらの子どもたちが命を失う原因は、半数以上が栄養失調による慢性の下痢や肺炎・伝染病である。これは子どもたちの生活環境を改善することでほとんどの場合、防ぐことのできるものである。私たちは、人類の一員として、世界中の人々と共に助け合って生きていかなければならない。そのために、今の自分にできることは何かを考えさせ、将来にわたって、国際協力をしていこうとする道徳的実践意欲を育てたい。

(2) 自作資料活用のポイント

ア 総合単元的な道徳学習のプログラムづくり

本主題に効果的にせまるために、道徳の時間を要とし、各教科等での学習の中で、今の世界の子どもたちが置かれている現状を理解させるとともに、自分たちのできる国際協力について考えさせ、取り組ませる体験をさせることが大切である。

イ 資料の中心場面で考えさせたい内容等

生徒たちに「国際協力などの支援活動で自分たちにはできることはないか？」と問いかけると「募金をしよう。」と答える生徒が多い。確かに、支援活動の一環としてお金や物資を送ることは必要なことである。しかし、ともすれば、募金でお金を集めることだけが目的になってしまい、その活動の基盤となるべき、お互いを友人として理解し、助け合い、共に生きていこうとする心の耕しが不十分となる場合がある。

そこで、この資料を通して国際協力は、特別なものでなく、日々の自分の生活の中で、国を超えて生きている友人たちに関心を持ち続けることであることに気付かせたい。そのことが将来にわたって、国際協力をしていこうとする意欲を育てることにつながるものと考えられる。

(3) 指導過程の工夫

ア 導入での工夫

導入では、井戸が完成して喜んでいる村人たちの様子等が分かる写真や映像を活用したい。また、カンボジアの風景や生活の様子のできる写真を提示するのもよい。

イ 資料提示の工夫

あらかじめ資料を終わりの会での出来事と下蒲刈町朝鮮通信使再現行列イベント会場での活動部分の二つに分けて提示する方法も考えられる。

ウ 切り返し、補助発問の工夫

行為の裏側にある心情を引き出すために、次のような補助発問を行い、生徒たちの思考を深めるとよい。

- ・「募金することが、国際協力なのでしょうか。」
- ・「あなたが募金する目的は何でしょうか。」
- ・「なぜ募金をしていただいた方にミサンガを配ったのでしょうか。」等。

(下蒲刈中学校 上仁和)